

## 大和市生活支援・介護予防第1層協議体第1回会議会議録

日 時：平成29年7月11日（火）午前10時30分～午前11時45分

場 所：大和市保健福祉センター501会議室

出席者：大和市長 委員9名（欠席なし） 支援組織2名（欠席なし） 事務局  
傍聴人2名

### 配布資料

- ・ 大和市生活支援・介護予防サービス第1層協議体構成員名簿
- ・ 資料 1 大和市生活支援体制整備事業実施要綱
- ・ 資料 2 大和市生活支援・介護予防サービス第1層協議体運営要領
- ・ 資料 3 大和市における第1層協議体の運営について
- ・ 資料 4 第2層協議体の状況について

### 会議次第

1. 開 会
2. 市長あいさつ
3. 委員・支援組織等の紹介
4. 会長及び職務代理の選出について
5. 議題
  - （1）大和市における第1層協議体の運営について
  - （2）大和市における第2層協議体の状況について
6. その他
7. 閉会

### 会議内容

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 委員・支援組織の自己紹介及び事務局職員の紹介
4. 会長及び職務代理の選出について
  - ◆互選により会長は近藤委員、会長の指名により職務代理は増井委員がそれぞれ選出された。
  - ◆会長及び職務代理から挨拶
  - ◆傍聴人2名の入室

## 5. 議題

### (1) 大和市における第1層協議体の運営について

- ◆資料2（大和市生活支援・介護予防サービス第1層協議体運営要領）、資料3（第1層協議体の設置への経過等）に沿って、第1層協議体の所掌事項、支援組織の位置づけ及び協議体発足に至るまでの経緯について事務局から説明。

#### [質 疑]

- 会 長：事務局から第1層協議体について説明があったように、第1層は市全域が対象となる。市長が述べていたように、非常に難しい事を我々はやっていくことになるのではないかと思いますし、大事な役目を担っているとも思う。これまでは、高齢者の方が地域を支えてきたが、これからは地域が高齢者を支える時代になると思う。生活支援というと難しい問題と考えがちだが、ちょっとした困り事の支援も生活支援に入ると思う。あまり難しく考えないで、進めていきたい。
- 委 員：要領を読むと協議体について非常に整理されているという感想を持った。自分は第2層の会議に参加しており、要領第4条の「支え合い推進員の配置」を読むと、第2層にも配置について考えていく必要があるなど、第1層協議体運営要領は第2層の規約作成に非常に参考になると思った。
- 委 員：第1層協議体は、市内全域を対象に要領の第2条に書かれている所掌事項1から5のすべてを協議していくものだと理解した。これだけの人数で年3～4回の会合で所掌事項全部をやるのは難しいと思う。そこで、要領には載っていないが、所掌事項の各項目に沿って担当区分を決め、委員3人程度の専門部会を設置する方法もある。そういうことはできるか。
- 事 務 局：現在、市内の第2層という地域の活動は1つの協議体ができ、4カ所で準備会が立ち上がったばかりであり、その他の地区では、これから勉強会を始めていこうという状況である。第2層の活動がある程度動き出すと、それぞれの地区の共通の課題が出てくる。そういう課題を事務局が吸い上げ、整理した上で、要領第2条の所掌事項に沿って委員の皆さまに提示し、意見をいただきたいと考えている。現段階では、地域の活動がこれからという状況であるので、委員の提案については、もう少し状況を見極めた上で検討したい。
- 委 員：所掌事項を全て協議するのは難しいのではないかと考えたため質問した。将来この議論を煮詰めていければいいと思っている。
- 会 長：南林間地区では協議体が立ち上がって、活動をしている。時間があれば、実際に南林間地区に行き、何を取り組み、どのように運営しているのか、人は、お金はどうなっているのか勉強することもいいと思う。
- 委 員：第1層協議体のメンバーは、各地域で活動している代表であるが、まずは、第1層について理解することが大事だと思う。それから、第1層協議体で議論したことや情報を地域に発信していくことが必要だ。また、第1層のメンバーが第2層に入り込むのではなく、第1層協議体が地域団体に活動している団体が動きやすい環境づくりについて議論し情報を発信していくことが、第2層協議体の準備会立ち上がり役に役立つと思う。それから、第1層協議体は地域の特性や地域差についても理解することが必要だ。南林間地区を一つの見本としても、南林間地区を

そのまま他の地域にあてはめることはできない。地域の主体性が生かせるような環境づくりをしていくことが必要だ。

事務局：委員の皆さまは、地域で実際に活動している組織の代表者であり、ここで話し合ったことや、各地域の情報などを委員の皆さままで共有していただきたい。これまで、各地域で活動している組織の会長や副会長に生活支援体制について説明に伺っているが、まだ十分に理解されていない面がある。ここで話し合ったことも含めて、各組織に話していただければ地域づくりに繋がると考える。委員が述べたように、第1層協議体で議論する内容がテーマによっては、地域に情報を提供すべきものとそうでないもの、あるいは上からたがをはめてしまうことになるものがある。それぞれ地域性が異なることから、ある地域においては地域づくりへの阻害要因となるテーマもある。一方で、ボランティアの育成というテーマは各地域の共通課題であることから、そういうものは、全体のテーマとして議論していきたい。地域の特性を十分考慮していくことが大切である。

会長：委員から、南林間という地域の特性、地域による温度差について話が合った。南林間のような非常に良い地域性に恵まれていると協議体がスムーズに立ち上がる。しかし、そうでないところもいっぱいあると思う。全部が足並み揃えてスタートすることは難しい。民生委員、自治会、自治連、社協等、四位一体、五位一体、六位一体とならないと、協議体をスタートすることは難しい。その他何かありますか。

委員：第1層協議体の所掌事項は要領のとおりでいいと思う。第2層についてだが、第2層協議体の運営要領を作成するかどうか。また、地域によって状況がさまざまである。すでに協議体以上のことを行っているところもあれば、そうでないところもある。各地区のレベルアップを図るようなマニュアルを作成するのか。

事務局：これまでも、協議体、準備会に運営要領「案」をそれぞれの地区に提示している。内容的には、第1層の要領をかみくだいた内容である。しかし、これでなければいけないというものはではない。2点目だが、確かに深い議論をしているところもあれば、そこまでは議論していないところもある。今後地域の実情にあった支援をしていきたいと考えている。

会長：他に何かありますか。

委員：議題から外れるが、シルバー人材センターが4月から始めた家事支援は、市民ニーズが相当あると見込んでいる。7月15日に自治会にお願いしてチラシを配布する。今後、どのようなニーズがあるか整理していきたい。

## (2) 大和市における第2層協議体の状況について

◆資料4に沿って、各地区の状況について事務局から説明。また、福田北地区は鈴木委員、つきみ野地区、下鶴間地区は金子委員、中央地区は石毛保健師、南林間地区は課長がそれぞれ各地区の特徴等を補足説明。

### [質疑]

委員：先ほど、南林間地区では、ボランティアが全戸にポスティングすると話が合ったが、現在、自治会加入率は60%程度である、自治会未加入者にもポスティング

することに、地元で何か摩擦となるようなものはなかったのか。

事務局：南林間地区からは、摩擦となるようなことは聞いてない。南林間地域に住んでいる人のための活動であると理解されているようだ。むしろ早く全戸にポストイングしたいという気持ちが強いようだ。

委員：いいことだ。会長が先ほど話していたように、そういうところに地域差が出てくる。自治会が強いところだと加入者、未加入者とのあいだに軋轢が見え隠れする。今後地域性を考えるときの懸案事項と考えている。

委員：委員が心配する点は当然である。しかし、避難行動支援者支援も同じである、助けなければならないという気持ちが優先しているのではないか。だから、私はその点はあまり心配していないが、南林間地区の事例は参考にしなければならぬと思う。

委員：市内全域に民生委員がいて、高齢者の困り事について把握している。介護に係る事では包括支援センターが担当だが、包括の対象とならない人達の情報も各地区の民生委員が把握している。民生委員がつなぎ役となってそれらの人達を支援する地区社協、ボランティアに本人の同意のもと情報を提供しながら活動している。だから、今後地域で準備会や協議体の立ち上げにあたっては、ピンポイントで対象者のニーズを把握している民生委員を構成委員に加えていただければ、活動しやすくなるのではないか。

事務局：ピンポイントで地域の情報を把握できているは民生委員である。協議体の情報を民生委員と共有し要支援者に伝えていくことも大切であると思う。

委員：第1層協議体の情報共有をどうやっていくのか。お互いを知り合うことから始まると思うが、情報共有の方法がまだ見えてこない。例えば先ほど南林間地区に実際に見に行くという話があったが、誰にアクションを起こしたらよいかかわからない。具体的な動きについてどのようにしたらよいか聞きたい。

事務局：南林間地区は自治会、民生委員、地区社協というコアな組織で話し合いが行われている状況である。従前の研究会の中で検討された、ゆめクラブ、地域で活動しているNPO、状況によりシルバー人材センターなどにも声を掛けていくことになっている。今後とも南林間地区については市から情報を提供していく。南林間地区の活動は始まったばかりであり、協議体における主体の広がりについては、もう少し時間が必要と考えている。南林間地区の現場を見たいときは高齢福祉課に声を掛けてもらいたい。

委員：福田北地区の場合、当初自治会、民生委員、市社協、地区社協で活動していたが、準備会を立ち上げるにあたって、ゆめクラブに声を掛けた。今後、銀行、郵便局、弁当屋などいろいろな団体にも声を掛けていくといこうと考えている。第1層協議体の中で、それぞれの地区がどういう意思をもって協議体を立ち上げていくのかという情報を共有していくことが必要である。まだスタートしたばかりであり、共有すべき情報が少ないため、広がりにはもう少し時間がかかる。

委員：今後地域のニーズを把握することで、協議体のメンバーが増えていくのではないか。いろいろな団体の情報を協議体で共有することが大切であり、そういう人達と協力して協議体を運営していかなければならないと思う。

6. その他

◆事務局から、次回の開催時期は秋頃を予定している旨連絡。

7. 閉 会